

(様式第3号)

平成31年度 租税教育事業実績報告書

委 嘱 校 名	都城市立 高崎中学校
所 在 地	〒889-4505 電話番号 (0986) 62-1108 都城市高崎町大牟田1904番地1
校 長 名	木 下 文 秋
担 当 教 諭 名	浅 田 肇
<p>1 租税教育の成果</p> <ul style="list-style-type: none">○ 租税教室を実施することによって、税金の意義や、使用の仕方について、生徒に興味・関心を持たせ、理解を深めることができた。○ 税金のしくみや税の在り方など、3年生を中心に資料を基にして考えさせることが出来た。 <p>2 租税教育の反省</p> <ul style="list-style-type: none">○ 本年度は委嘱校1年目ということもあり、手探りの中で戸惑いながら授業や活動を行った。学校全体として、社会科以外の教科まで広げて活動を行うことができなかった。○ 本年度は、3年生を中心に活動を行ったが、1・2年生にも消費税や税の歴史などわかりやすいところから税の知識に触れさせることが大切であると感じた。 <p>3 租税教育の今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none">○ 新聞やニュースなどの中から税に関する興味関心を引き出す工夫が必要である。○ 税についての税に関する作文やポスターなど、国語科や美術科など他教科とも連携し、租税教育の取組みを広げていく必要がある。	

(その他)

租 税 教 育 事 業 実 績		
実績年月日	事 項	内 容
4 月	年間計画の作成	<ul style="list-style-type: none">・ 租税教育推進委員会の設置・ 年間計画の作成
5 月	社会科部会 校長・担当教諭会	<ul style="list-style-type: none">・ 租税関係資料の収集と整備・ 校長・担当教諭会に出席
6 月	第 1 回租税教室	<ul style="list-style-type: none">・ 3 年生徒を対象にした講話
7 月	租税作品募集	<ul style="list-style-type: none">・ 3 年生を対象にしての作文の募集
8 月	租税作品作成指導	<ul style="list-style-type: none">・ 3 年生を対象にしての作文指導
9 月	租税作品審査	<ul style="list-style-type: none">・ 租税作品の校内審査・ 優秀作品の提出
1 0 月	優秀作品紹介	<ul style="list-style-type: none">・ 優秀作品を紹介
1 1 月	社会科授業「都城の税の使い方」	<ul style="list-style-type: none">・ 第 3 学年 公民「私たちの生活と財政」 において都城市の財政の特徴を考える
1 2 月	社会科授業「明治維新の三大改」	<ul style="list-style-type: none">・ 第 2 学年 歴史「明治維新の三大改革」 において江戸時代と明治時代の税の違いを 考える
1 月	今年度の反省及び来年度の計画	<ul style="list-style-type: none">・ 1 年間の取組の反省を踏まえ来年度の計画 を作成
2 月	同上	同上
3 月	実績報告書の作成	実績報告書の作成

1 租税教室の実際

7月に3年生を対象にした租税教室を行った。都城税務署から講師の方に来ていただいた。

講話内容は、①税とは何か ②税の仕組み ③国の財政の特色などわかりやすく説明をしていただいた。事前アンケートの結果、生徒達は消費税については知っているが、税がなぜ必要なのか、税が集められてどのように使われているのか、知識がない生徒が多く、その2つの視点を中心に講話をしていただいた。

(1) DVD 「ご案内しますアナザーワールドへ」



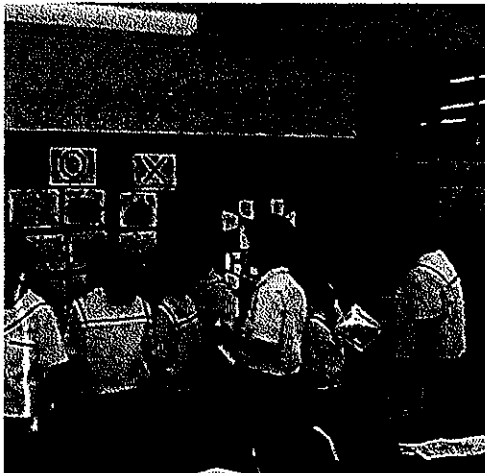
生徒の感想

DVDを見て、税金が僕たちの生活に必要なだということが実感できた。

税金がなかったら、怪我をしても救急車が来ない、家が火事になっても消防車が来ないということになり怖いと感じた。

今は中学生で税金をあまり払っていないが大人になったらきちんと払っていきたい。

(2) 税金で作られるもの



生徒の感想

今までは、税金という言葉は知っていたが、税金と私の生活がどのように関係しているのかわからなかった。私のいる高崎にも、小学校、中学校、消防署、道路など税金で作られているものがある。税金がなかったら学校もなくなり生活できなくなるので税金は大切であると実感した。

(3) 国の財政の特徴



生徒の感想

日本や宮崎県の財政のことが分かった。税金がどのように使われているのか、今まで分からなかったが福祉や社会保障に対して多く使われていることが分かった。なぜ福祉や社会保障費に使われているのか疑問に思った。また、宮崎県の自主財源が少ないことがわかり驚いた。

(4) 教師の感想

都城税務署の方の講話で、大変わかりやすく詳しい講話だった。DVDで、税金の目的や意味がわかり、間接税や直接税などの制度や、税の使い道についてしっかりと理解できたのではないかと考える。

2 税に関する授業の実際

(1) 第一学年 社会科 歴史 「古代国家の歩みと東アジア世界」～奈良時代の人々の暮らし

「長屋王邸」と「平城京の一般の人々の家」を比較して、税の仕組みと戸籍を理解させ、2つの資料から、どんな人（男性、女性、男の子、女の子）に税の負担が多かったのか考え発表させた。

段階	学習内容および学習活動	指導上の留意点	評価	資料・準備
振り返る	1 小テストで既習内容の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平城京と長安を図などで比較し、関連性を理解する。 ○ 世界遺産や国宝に指定される文化財と、遣唐使の関係について理解する。 		
つかむ	2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「長屋王邸」と「平城京の一般の人々の家」を比較する。 		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">なぜ貴族の家や食事は豪華なのだろう？</div>			
	3 予想を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長屋王という人物を紹介し、予想を立てさせる。 ○ 公地・公民制の仕組みを振り返らせる。 		
追求する	4 資料をもとにしてどんな人に負担が多かったのか考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料「古代の戸籍」、「一般の人々の負担」をもとに考えさせる。 ○ 戸籍の意味や、租調庸のしくみなど説明して考えさせる。 		資料1 「古代の戸籍」「一般の人々の負担」
	5 班で話し合い理由をまとめ、発表する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2つの資料から読み取れることをもとに発表させる。 		
まとめ	6 学習問題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 負担に対して人々はどのような行動に出たのか予想させ、次の学習につなげていく。 		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">戸籍をつくり、住所や年齢を把握し、租調庸などの税を納めさせそれで豪邸を建てたから。</div>			

(2) 第二学年 社会科 歴史 「明治維新」～明治維新の三大改革

江戸時代の年貢と明治時代の地租を比較して明治時代の税の特色をとらえさせた。

江戸時代の不安定な財政の状態から、地租による安定的な財源確保への変化を資料をもとに考えさせた。

段階	学習内容および学習活動	指導上の留意点	評価	資料・準備
振り返る	1 小テストで既習内容の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 税の意味について確認する。 ○ 江戸時代の税制(年貢)のしくみや課題について復習する。 		
つかむ	2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料「地券」を提示し、語句の説明を通してめあてにつなげる。 		
	明治時代に入り、税の仕組みはどのように変化したのだろうか？			
追求する	<p>3 資料をもとにして江戸時代と明治時代の税制の違いを比較する。</p> <p>4 政府の財政はどう変化したのかグラフから読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江戸時代の年貢と比較して、違う点を考えさせる。 ○ 税率を地価に対する一定率とすることで財政が安定したことをグラフから読み取らせる。 		資料1 「政府の収入の移り変わり。」
まとめ	5 学習問題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地租改正によって政府の財政が安定したが、税負担における一揆が起り税率を引き下げたことに触れる。 		
	年貢が地租となり、地価の3%を現金で納めさせた。政府の財政は安定したが、税負担に対しての一揆が起り税率を引き下げた。			

(3) 第三学年 社会科 公民 「明治維新」～明治維新の三大改革

宮崎県の一般会計歳入額・歳出額のグラフを読み取り、課題や解決方法を考えさせる。

実際に行われているメタボ健診や企業誘致など紹介して、宮崎県の財政状況に対して興味関心が高まるようにする。

段階	学習内容および学習活動	指導上の留意点	評価	資料・準備
振り返る	1 小テストで既習内容の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主財源や依存財源など税の言葉について確認する。 ○ 宮崎県の財政状況の予想をさせる。 		
つかむ	2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎県の一般会計歳入額・歳出額のグラフを提示し、語句の意味をおさえ、めあてにつなげる。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 宮崎県の財政の特色を見つけよう </div>				
追求する	3 課題を見つけ、課題を解決する方法を考え発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 税を多く集める方法、税を使わないですむ方法の2つの視点で考えさせる。 		資料1 「政府の収入の移り変わり。」
	4 宮崎県が行っている財政政策を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療のメタボ健診や企業誘致を例にあげ紹介する。 		
まとめ	5 学習問題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来の宮崎県を支えるのは自分たちであるという意識を持たせる。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 依存財源が多く、自主財源が少ない。 少子高齢化で社会保障関係費の割合が多い。 </div>				

3 租税教室・・・職員研修より




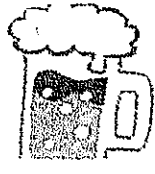

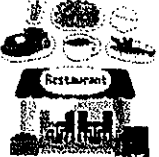


冬休みに職員研修において租税教育研修を行った。内容は「消費税の導入について」、「軽減税率制度について」である。昨年の10月に消費税が導入され、軽減税率制度も始まった。複雑な制度で知識が曖昧な部分があったが、研修を受けて10%になるものと8%のままのものとの違いが分かった。

職員研修を受けて、社会科の授業において軽減税率についてのクイズを行った。生徒達は、消費税が10%に上がったことは知識として持っていたが、軽減税率制度について理解が不十分であった。クイズを通して制度のしくみを整理することができた。生徒の生活に身近なものを提示して問題としたこともあり授業が盛り上がった。

【軽減税率クイズ】

Q 次のうち、軽減税率（税率が8%のまま）のものはどれだろう？

<p>①新聞</p> 	<p>②野菜</p> 
<p>③弁当</p> 	<p>④ビール</p> 
<p>⑤水道</p> 	<p>⑥外食</p> 

共通点は何だろう？

4 租税作品

(1) 租税作文表彰



夏休みに応募した租税作文の表彰を受けた。租税教室をうけての感想や、普段の生活における税についての考えなど自分と税についての関係を綴った作文だった。作文は社会の時間に発表させ紹介した。

(2) 租税短歌作成

- 税金を 納めていこう 明日のために
- 税金は ぼくらの街を つくっていくよ
- 支えよう 私の街を 税金で
- 税金は 今と未来の 架け橋だ

租税教室を受けて、第三学年の社会科の授業の中で短歌も作成した。

租税教室を受けて、税の意味や目的を理解した後だったこともあり、税を納めることの大切さをうたった俳句が多かった。

5 おわりに

租税教育の委嘱をうけての1年目であった。

私自身、これまで租税については無頓着であったが、租税教室をはじめ、租税について多くの学びがありとても有意義な1年間であった。現代の日本社会は、高齢社会に入り、人口減少社会となり、租税や財政の課題は大きくなる一方である。今年度の取組みは、現代の租税の特色や課題を中心に取り組んできた。来年度は、生徒達の将来にも視点を広げて考えさせる活動を行っていきたいと考える。

また、今年度の取組みは3年生の学級担任ということもあり3年生の授業における取組みに終始し

てしまった。社会科と国語科などの教科間の連携。総合的な活動の時間での取組み、図書室と連携して税に関する本の購入・紹介など幅を広げた取組みを構築していきたいと考える。